

### 1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092700059		
法人名	特定非営利活動法人 ラポール		
事業所名	特定非営利活動法人 ラポール グループホーム朝日新明館		
所在地	東筑摩郡 朝日村 古見1938		
自己評価作成日	令和1年10月9日	評価結果市町村受理日	令和2年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_pr_ef_search_list_list=true">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_pr_ef_search_list_list=true</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和1年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝日新明館の理念「人と人とのつながりが笑顔の輪になる」のように、職員が笑顔で接し、ご利用者様の笑顔を引き出し、いけるようなケアを行うことで、その人らしい生活を実現して行くことができると信じ、実践に取り組んでいます。また、朝日新明館は自然豊かで、静かな池のほとりにあるグループホームです。四季折々の季節を楽しみ、ご利用者様は穏やかに過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

玄関に理念として大きく掲げられているように、利用者は自然豊かな地区の中でおいしい食事をして元気よく過ごし、職員の楽しそうな笑顔に囲まれ、一緒に地域に出かけ、幸せに過ごしていることがよく分かるグループホームである。  
そして、近年このグループホームは「認知症カフェ」の開催や継続に積極的に協力したり、これまでの「火祭り」や「敬老会」などの地域の行事に継続して参加したりして、地域との交流を広げ、深めて、実績を上げているグループホームでもある。  
これらのことは、利用者を支える職員の力はもとより、管理者の優れた指導力のおかげだと考える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。**

ユニット名( )		項目		項目	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と人とのつながりが笑顔の輪になる」という理念のように、職員が笑顔で接し、ご利用者様の笑顔を引き出していけるようなケアの実践に取り組んでいます。	玄関の理念を掲げた大きな掲示物には「利用者の元気」「職員の楽しみ」「地域との交流」の三つの輪が手をつないで描かれている。利用者がおいしい物を食べて元気よく暮らし、職員が楽しく笑顔で利用者に接し、利用者と職員とが一緒になって地域との関りを持っていこうとする理念をよく表わしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご利用者様が地域とのつながりを持ち続けられるように地域の行事参加等により、交流を図っています。この地区の区長の協力によりさらに交流を広げています。	地域の「火祭り」や地区の「敬老会」に参加したり、「認知症カフェ」に出かけたりして交流を広げている。また、グループホームにハーモニカや日本舞踊のボランティアに来てもらったり、地域の方から野菜などをもらったりして楽しく豊かに交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症初期集中支援チームへの参加や「認知症カフェ」への協力などを通して、地域貢献をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の区長、民生委員、村役場の職員、ご家族代表の他、季節や行事により、関係する方々をメンバーに加え、年6回行っています。そこでの意見交換により、サービス向上に活かしています。	運営推進会議の議題によって、消防署の職員や看護師にも参加してもらい、充実した話し合いを行っている。地区の区長には、防災対策や他の施設との紹介などに協力してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の地域会議や認知症体験研修に参加したり、「認知症カフェ」の場を提供したりして協力関係を築き、グループホームの実情をより理解していただくように努めています。	村の関係職員とは、「認知症カフェ」の開催や継続支援について連携を取りながら推進している。特に、「認知症カフェ」の場の提供を通して、よりよい関係を築いてきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を法人全体で行っています。職員会議でも議題として取り組んでいます。	利用者の安全のために、家族の了解を得て、車椅子の安全ベルトの使用や、玄関の施設を行うことがある。身体拘束解除に向けて職員会議等で話し合っている。	運営推進会議に「身体拘束廃止委員会」を位置づけ、共通理解を進めていきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に、虐待防止について話し合いを持つようにしています。		

グループホーム 朝日新明館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しているご利用者様がいます。それなりの支援を行っています。が、職員とともにもっと学ぶ必要があると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者していただけるご利用者様やご家族様に納得いただけるように、十分な説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様には普段の生活の中で聴き取りさせていただき、ご家族様とは面会時に話をさせていただきようにしています。内容によっては職員にも知らせ、その内容を共有しています。	家族会では、全体から意見を出してもらい、居室で家族からの話を個別に聞くようにしている。また、家族との面会の折には、管理者や職員が話しやすい雰囲気を作りながら、家族の意見や要望をとりいれるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議での意見提案を管理者会議で報告し、話し合いを行っています。	月1回の職員会議では、管理者の司会、主任の書記を中心に、運営やケアについて話し合いを行っている。そこでの課題、職員の業務負担などについては、法人の管理者会議で話し合い、検討をしている。毎日の、朝や夕方の打ち合わせでは申し送りなどを大事にし、共通理解を図るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける職場環境や条件の整備については、職員の意見により労働時間軽減から取り組んでいます。職員の疲労やストレスがご利用者様に悪い影響を及ぼすことがあるので、職員の業務負担の軽減を考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修を通して、常にご利用者様に対する接遇を学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外での交流の中で情報交換を行い、質の高いサービスが行えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族様とに話し合いを行い、グループホームでどのような生活をしていきたいかを確認し、ご本人に対するケアの参考にしていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に現在の困り事や不安、要望などを聞きながら、よく話し合うことで関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の個々の能力、趣味、そして生きがいなどを日々の生活の中から見出し、グループホーム内での支援方法を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を重視し、ご利用者様ご本人の「声」を大切に職員はご利用者様との良好な関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との面会を大切に、難しくなっていくご家族様との絆とのはざまの中、両方の目線に立って、ご本人への支援を考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームへの訪問や面会は、いつでも来ていただくことができるようにしています。また、電話もご本人につなぐようにしています。	家族や親戚、友人や近所の方の訪問にはいつでも気持ちよく対応できるようにしている。また、利用者が自宅に帰ったり、お墓参りをしたり、家族と一緒に買い物や外食をしたりすることができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様同士の輪に入り、会話やレクリエーションなどを行うようにしています。耳が遠い方や認知症の症状により意思の伝達など困難な方がいるため、お互いの思いや感じていることなどを伝え合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、移動先の施設への訪問や面会、ご家族様との連絡も行っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のケアの中より得られたご利用者様の言葉を書きとめ、意向の把握を行い、朝の打ち合わせや、職員会議でのカンファレンスにおいて職員間で話し合って共有するように努めています。	利用者の一人ひとりの思いや意向などは、「つぶやきノート」にメモを取って、毎日の「個人記録」や「夜間日誌」に記録している。そして、朝や夕方の打ち合わせや、職員会議でのカンファレンスにおいて話し合い、職員間で共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネージャーより情報の提供をいただいています。場合によってはご本人の情報をご家族様より聞き取り、より細かな情報の収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の様子や変化を職員は「表情や言動」を観察して捉え、引き継ぎの場において共有し、その後のサービスに結び付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の現在の状況を把握し、職員間でカンファレンスを行い、現状に即した計画を作成しています。	利用者についての「つぶやきノート」や「個人記録」「夜間日誌」などから現状を把握し、「介護計画モニタリング表」を活用して評価し、担当職員とともに介護計画を作成している。そして、カンファレンスにおいて、職員間で共通理解を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個人記録」などに記入したり、口頭でも情報を共有したりして、実践や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化時に生まれるニーズに対しては、そのたびに適切な支援やサービスで対応しています。		

グループホーム 朝日新明館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事へのご家族様の参加協力や地域の方の訪問、「認知症カフェ」の参加など、ご利用者様の生きがいになるような支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人、ご家族様の以前からのかかりつけ医となっています。月2回往診と月1回往診のかかりつけ医の往診となっています。また緊急の場合は何時でも受診できるよう支援しています。	利用者によって、月2回と月1回のかかりつけ医の往診があるが、緊急時にはいつでも受診できるようにかかりつけ医の看護師とも連携して支援しているので、安心できる。また、歯科医には通院できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と連携をとり、相談したり、アドバイスを受けたりして、適切な受診の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと連携を図り、現状把握をしています。また、退院後の受け入れ体制も整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に終末期在り方、重度化した場合の在り方など、グループホームでできることを説明し、医療関係者とも連携して職員とともに方針を共有しています。	利用者の「リビングウィル」(生前の意見)を大切に、延命処置など重度化した場合や終末期の在り方など、家族会の折に話し合っている。そして、看取りなどについても医療関係者とも連携して職員とともに方針を共有している。これまでも利用者の看取りを行ってきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時、事故発生時に対しての初期対応、応急手当等の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間における避難訓練はもとより、夜間帯想定災害発生時の避難誘導訓練も職員一人ずつ(夜勤を行う者)が行っています。夜勤一人体制時でも対応できるように、消防署の意見指導の下、訓練を行っています。また、災害時に備え非常食、飲料水、備品の準備もしています。	秋には昼間、春には夜間を想定した避難訓練を消防署の指導の下行っている。ヘルメットを全員用意したり、食料や飲料水を長期間準備したりして、万全を期している。土砂災害についても、避難場所を決め、利用者の安全確保に留意している。	非常口を整備したり、玄関のスロープの滑りやすさを改修したりすると良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を送ってこられたご利用者様に対し、個々の人生や生活歴などを配慮した声かけ、言葉遣いをするよう、職員会議時や法人内研修の場において、接遇について議題に挙げ、話し合いを行っています。	きつい言い方をする場合があるので、利用者の生活歴やプライドやプライバシーに配慮した言葉かけ、自己決定を促すような丁寧な言葉遣いなどに留意するようにしている。また、心から利用者を接遇することができるように職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、ご利用者様に声かけを行い、自己表現が苦手なご利用者様には表情や行動などを観察しながら、自己決定の場を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の行動はご本人のペースに合わせて過ごしていただくように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方には、ご自身の思い通りの服装に着替えていただきますが、介護度によっては職員が声かけを行って選んでいただき、介助にて着替えを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただくように色合い、品数に工夫しています。また、希望献立を活かしたメニューや体調に合わせた献立、季節に合わせた献立などで楽しんでいただいています。ご利用者様には下準備、後片付け等に取り組んでいただいています。	利用者にとって、昼食がメインで、豊かでおいしい食事を楽しんでもらうように、希望の献立を聞き、ノートに記入している。これまで、中華丼や海鮮丼、刺身やコロッケなど、利用者の希望を採り入れた献立が好評であった。利用者の体調などに合わせたきざみ食などもあり、利用者の下準備、後片付けなど役割もあり、満足できる食事であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせ、栄養バランスを考えた食事や水分を確保できるような食事を支援しています。また、水分に関してはスポーツドリンクなども取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食毎回、口腔ケアを実施しています。ほとんどのご利用者様が総入れ歯なのでご自分で洗浄していただき、その後のチェックや洗い直しを支援しています。		

グループホーム 朝日新明館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、それぞれのご利用者様の24時間排泄チェックの記録を行い、パターンや時間を確認し、時間によるトイレ誘導など、自立支援を行っています。	それぞれの利用者に合わせて、布パンツにしたり、紙パンツにしたりしている。また、夜間にはパットの大きさや枚数を変えたりしている。そして、排泄チェック表を活用したりして、トイレ誘導して失禁を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い、体操や水分補給、食物繊維の摂取などをすすめ、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望も採り入れ、ご利用者様は時間にとらわれることなく、ゆっくりと入浴していただいています。	利用者の希望を採り入れ、午前中でも入浴できるようにしている。車椅子の利用者には職員2人介護で対応し、独りで入れる利用者にも見守り、洗髪や背中流しを手伝ったりして、安全な入浴に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休まれる方、活動される方とそれぞれの生活習慣に応じた過ごし方をさせていただき、夜間もゆっくりと休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり薬が違うので、薬の用法や容量を理解したうえで支援しています。症状の変化には常に主治医との連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、役割として行うように支援しています。また、楽しみごととしては、大広間での個別の楽しみを支援しています。寒い冬の気分転換にもなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはグループホーム前の広場にて日光浴をしています。地域行事への参加やグループホームの車でのドライブなども行っています。また、ご家族様との外出も多く、買い物や外食を楽しまれています。	天気の良い日はグループホーム前の広場で日光浴をしたり、天気の悪い日は大広間まで廊下を歩き、レクリエーションをしたりして過ごしている。また、季節に合わせ、車でドライブに出かけたり、外食したりしている。家族との外出を支援している。	



グループホーム 朝日新明館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は持ち込まないことが原則ですが、ご本人やご家族様の了解後、お金を金庫にて保管し、ご本人の必要時に応じて使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人からの電話や手紙などは取次を行い、お返事の支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所には、ご利用者様が作られた作品などをなるべく飾り付けております、建物が広いためご利用者様は、お互いに不快な思いや混乱を招くことなく過ごしています、また、玄関先に出たり大広間の窓を眺めたりするだけで自然の景色を楽しむことができます。	利用者は、ふだん食堂で過ごすことが多いが、大広間があるので、行事がある時は使ったり、いつでも自由に過ごしたりできるようになっている。グループホームは寒い地区にあるが、食堂も大広間も暖房がよく利いて、過ごしやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当グループホームには「畳」の大広間があるので、様々な場面で有効に活用し、ご利用者様に思い思いゆっくりと過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は広く、収納も個々にできるようにしています。ご本人、ご家族様により、馴染みあるものを持ち込まれています。それにより自宅での生活に近づける工夫がなされています。	各居室は旅館をリニューアルしたグループホームであるので、造りが異なっているが、広く、工夫して使用できるようになっている。二人部屋も1室あり、利用者の希望によって、隣り合わせになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内は広く、居室からの移動も歩いて来られる方が多いですが、転倒の危険性も考えられます。事務室がちょうど廊下を見渡せる位置にあるので、そこから移動の様子を見ることができ、また、場合により誘導介助の指示も職員に伝えられ、安全に生活ができるように配慮しています。		